

東京

赤坂梅所九

田三郎殿



兵庫

郡武庫

印

廿二

山子

乃名



東京朝日新聞

何物者の替に玉

と國の民のニニ多

の一画に美社

負徳中ノ理想的

進る長し

ち一徳の上

安寺に代せ

の

ちりす一花の上

安毒しにや入せぬ

の

拙定に獅子二頭

あへたり但下女が

内務で居たのをあぐ

事あの方どく話した

に依り起(ん)が(あ)

小たとして下女が(あ)

は金くの起(ん)が(あ)

たごり船来の

事の方どく話した

己に依り起あが晴

小たとして下女か下女

は金くの起あが底

たごし船来のの

親高料とてゆ利彦

とあふりせ下女が殺

生罪を犯し物あり

て誤りたまひしこ仕あぬ

つたは、系定こは

今者二三あり

出役こはあり



と云ふは

世の丈531はせしめへの

骨高にせたるため

この彼の道に

わしはがぬ

あまふか

道理がど

たのみにはぬ

之候西下

にはつとす

たふはる

大板はる

くはる

